

ラトビアとエストニアにおける工作教育、職業教育についての覚書

横山 悦生

(1) ラトビアの工作教育について

今回訪問した、ラトビア大学教育心理学部「工作及び家庭」学科 (University of Latvia, Faculty of Education and psychology, Department of Handicraft and Home economics) は、筆者にとっては二度目の訪問であった (最初の訪問は1998年2月)。今回も前回と同様マーラ・ウルチーナ氏 (同講師) に案内していただいた。マーラ・ウルチーナ氏から聞き取りした内容を以下に整理して述べる。今回、ソビエト時代から現在 (1991年の独立以降) への工作教育をめぐる変化について主に聞き取りをおこなった。ソビエト時代にはこの教科は労働科と呼ばれていたが、現在は第1学年から第4学年では「視覚芸術と工作」(visual art and handicraft) という名称が、第5学年から第9学年までは、「家庭と職業」(housekeeping and trade) という名称が与えられている¹。週あたりの時間数については、第1学年から第4学年までは週3時間、第5学年から第9学年までは週2時間となっている²。教育内容については、以前はほとんどがモスクワから指示されたもので、都市部と農村部の学校での違いをのぞけば、すべての学校にとって同一の内容であった。現在は基準だけが決められ、それぞれの教師が自分のプログラムを決めることができる。この教科の目的は、以前は多くの目的が設定され、それらには職業的なオリエンテーションを行うこと、ポリテフニズム的な発達、労働に対する愛をそだてることなどが含まれていた。現在の主な目的は創造的な個人を育てることにおかれている。この教科の具体的な内容については、以前は男子と女子では異なっていたが、現在ではある学年までは共通に学習している。筆者は、ラトビア大学教育心理学部「工作及び家庭」学科の各実習室を見学させてもらったが、ここでの教育内容はより芸術教育的な面が強くなっているという印象をうけた。金工を担当している教員は職人 (artisan) としての装身具をつくって収入の一部にしている (教員の給料だけはとても生活できないという話も聞いた)。その装身具は中世時代の装身具のデザインをまねてつくっていた。また、テキスタイルのデザインのなかにラトビア民族の伝統的なものを重視していた。また、木工・金工関係の機械がピンク色や紫色に塗られていたことも印象的であった (写真1 (1)、1 (2))。

¹Ministry of Education and Science "Education in Latvia" p.8,1996

²Ministry of Education and Science "Education in Latvia" p.8,1996 第5～第9学年についてはこれらの他に「視覚芸術」に2時間 (第5学年)、1～2時間 (第6～8学年)、1時間 (第9学年) が当てられている (カリキュラムの基準表 (後掲) を参照されたい)。

その後、マーラ・ウルチーナ氏の案内で、9月12日にリガ第2ギムナシウムを、9月14日にグローピナ中学校を訪問した。リガ第2ギムナシウムでは、工作教育を担当している Juris Kreicbergs 氏に木工実習室と金工実習室を見学させていただいた。マーラ・ウルチーナ氏の解説では、一般的に予算が少なく機械や道具が不足しており、工作教育の授業もなされていない学校もあるなかで、この学校ではこの工作教育担当教師が熱心で比較的設備も整っているということであった。この学校の実習室の写真を示す(写真2(1)、2(2))。このリガ第2ギムナシウムでは、金工の授業を参観させていただいた。この日の授業の課題は「栓抜き」の製作で、最初教師は2種類のデザインを示し、生徒に選ばせていた(写真3(1)、3(2))。教師はまず生徒が選んだデザインの「栓抜き」を黒板に書き、生徒はノートにその図面を書いていた。Juris Kreicbergs 氏より生徒の作品の写真をいただいたのでそれを掲げておく(写真4(1)、4(2)、4(3))。

グローピナ中学校では、工作教育担当教師 Aivars Porins 氏に木工実習室と金工実習室を見学させていただいた。氏は古い道具の収集家で、ときには自分で古い工具を制作することもあるという。その収集した道具を木工実習室に展示してあったので、その一部を写真に示しておく(写真5)。Aivars Porins 氏は、木工や金工は男子生徒にのみ必要で、女子生徒には不要であると断言していた(写真6)。現在の学習指導要領では、第5学年から第9学年の履修領域としては、男女共通の領域として1.食物 2.人間と環境の安全 3.住居 4.家庭経済 5.消費者学習が指定されており、男子の選択領域として木工、金工、製図、女子の選択領域として裁縫、刺繍、編み物、かぎ針編み、ろうけつ染め、構図(これはさまざまな材料(布、紙、木の実など)を使ってデザインを学習する)、エスノグラフィー、室内装飾があげられている。この教師は男子生徒用の木工、金工、製図だけを教えているということであった。この男女の選択領域が異なることについて、その理由をマーラ・ウルチーナ氏に質問したところ、この年齢になると女子はテキスタイル活動を男子は技術的活動を好むからということであった。

(2) エストニアにおける工作教育

9月19日には、タルトの教員養成大学(Tartu Teacher Training college)を訪問し、テキスタイル(Textile Works)を担当している同大学講師のチューリ・トムソン氏に工作教育関係の実習室や授業を見学させていただいた³。その授業では、約15名ほどの学生が木の実を材料に工作を学んでいた(写真7)。完成したときの作品を写真8に掲げる。ここで作っている作品は、学生が初等教育の教員になった

³この学校は第1学年から第4学年のクラス担当教員を養成する学校であると説明をうけた。生徒数は、各学年100名くらいで、全部で400人から500人であるという。ここには現職の教員で、資格を持っていない教師が1ヶ月に1週間勉強にきているという説明もうけた。

ときに工作の授業で生徒に作らせるものと同じものであるので、その他の作品を写真9に示しておく。チューリ・トムソン氏(1971年生まれ)からエストニアの工作教育について聞き取りをおこなったので、以下にそれについて整理しておく。工作教育(handicraft subject)の主な目的は生徒の全面的な発達と生徒を生活に向けて準備することであるという⁴。週あたりの時間数については、第1学年から第4学年までは週2時間、第5学年から第7学年までは週2時間、第8, 9学年は週1~2時間となっている。カリキュラムは、生徒が実践的な(practical)学習過程において創造的に批判的に対話する機会をもつようにつくられなければならないとされている。それと同時に国民的な経験、今日的には世界的な経験、発明、人間にやさしい環境が考慮に入れられなければならない。生徒は実践的で、オリジナルな考えを日常生活にもちこむために、考えること、解答を探求すること、実験をおこなうこと、知識を分析すること、技能を変えていくことを学ばねばならない。これらのことを行なうことによって、生徒は現代の材料、道具、設備を使用することを学ぶであろう。この目的は、また生徒の言語的、数学的、社会的、技術的、自然保護的能力を発達させることでもある。

第1学年から第3学年は、生徒はさまざまな材料について、簡単な道具を使う技能、正確な作業の方法で作業を行う技能を学ばなければならない。想像、創造性、思考し、計画をたてる能力、手の技能が発達させられなければならない。生徒は自分自身でやりとげること、うまくやりとげること学ぶ。作業をとおして美的なものを見て、それを創造していくことを学ぶ。精神的、肉体的能力も作業をとおして高められなければならない。

第4学年から第9学年については、生徒は2つのグループに分けられる。一つは、テキスタイル活動(Textile Works)とホーム・エコノミックスのグループ、他の一つは技術的活動(Technical works)である。このグループ分けは男女別とは対応しないということであった。ただし、第4学年はグループ分けをせず、一緒に勉強し、第5学年からグループ別の学習が始まるのが通例である。テキスタイル活動(Textile Works)には、裁縫、編み物、かぎ針編み、刺繍があり、これらは必修領域であり、それ以外に毎年教師はパッチワークや紙作りなどのテーマから選択するという。ホーム・エコノミックスには、栄養の知識、衛生、家庭経済、家庭を清潔に維持すること、エチケットなどを内容としている。技術的活動(Technical works)には、以下に掲げるテーマから教師がその学校の状態を考慮に入れて選択

⁴第1学年から第4学年の教科書のタイトルである”Tööopetus”をエストニア-英語辞書で調べると”Manual training”と訳されている。この学年の教科書は3種類あるが、それは、1. 行儀作法、身の回りの整理整頓 2. さまざまな材料 3. テキスタイル の3種類の教科書から成っている。第5学年から第9学年の教科書のタイトルは男子用と女子用に分かれていて、男子用は”Poiste Tööopetus”、女子用は”Käsitöö”となっている。同辞書では Poiste は for boys, Käsitöö は handicraft と訳されている。

することになっている。技術の歴史、デザインと技術、仕上げ作業、電気手工具、木による模型製作、木材接合、木工旋盤、木による装飾、木作品の修復、針金細工と薄板細工、手工具による金属加工、機械による金属加工、金属による装飾、溶接、電気技術、鍛冶、プラスチック作業、装身具、陶磁工芸、皮細工、ガラス細工、製本、航空機及びロケット模型製作、船の模型製作等。

ソビエト時代から現在への工作教育をめぐる変化について聞いたところ、生徒が選択する自由度が増え、教師も選択できる自由度が増えたこと、男子生徒がテキスタイル活動を選ぶこともできるし、女子が技術的活動を選ぶことができるようになったということであった。さらに、チューリ・トムソン氏の個人的意見としては、この教科はより芸術教育の方向へ動いてきたという。製作は（以前のよう）大きなものは作らなくなった。プロセスー計画・デザイン・グループ作業・調査等一が重視されるようになった。刺繍を例にあげると、以前は本や参考書からパターンをとり、それを正確に再現する。それと同じものを正確に作らなければならなかった。また、同じクラスでは、全員が同じものを正確に作らねばならなかった。現在は、自分の技能、材料、自分の目的を考慮に入れて、各自が自分自身のデザインをつくるのがよいとされるようになった。もちろん、結果は正確なものでなくてはならないとともにオリジナルなものであるべきである。

チューリ・トムソン氏の夫は（1969年生）、中学校の教師で技術的活動（Technical works）を担当しており、彼の意見をきくことができた。それを以下にまとめておく。

技術的活動もまた芸術教育の方向にますます動いている。その内容には、以前のカリキュラムにはなかった、修理作業（restoration works）、航空機や船の模型製作、エレクトロニクス、プラスチックをつかった作業（works with plastics）という新しいテーマが入ってきた。学校の状態は、材料の数量、道具、機械の点においては、10年前と比べて概してよくなったが、現在すべての値段が高く、学校としては新しいモダンな設備、道具や機械が購入できない。しかし、学校によりその状況は多様である。たとえば、彼の学校ではその学校に与えられる年間予算の半分が木工室や金工室や機械の改善に使用された。一方で、木工室や金工室が閉鎖されている学校もある。その生徒たちはこの教科を受けていない（この場合学校長は法律を無視していることになる）か、他の学校に行って勉強している。ソビエト時代には単純労働や労働者階級は全体として高く評価された。そして、この教科も高く評価された。また、かつては商店には商品はなく、何も購入することができなかった。したがって、何でも自分でつくるしか方法がなかった。今では店にいろいろな商品が豊富にある。それゆえに、この教科のもっている役割も変わってきている。最も悪い時期は乗り越えつつあり、新しい社会状況においてこの教科は今後よくなっていくと思う。以上が氏の見解であった。

9月20日には、タリン教育大学（Tallinn Pedagogical University）の工作教育学科

を訪問した。案内していただいたのは、Ene Lind 氏（同大学助教授）である。氏はテキスタイル活動の方を主に担当しており、テキスタイル活動の実習室を見学させていただいた（写真 10）。Ene Lind 氏は先述した第 1 学年から第 4 学年までの 3 種類の教科書を執筆している（“Too-opetus 14 klassile”）。また、金属加工を担当している Mart Soobik（氏の名刺には Head of Handwork Unit）と書かれていた）にも木工、金工実習室を見学させていただいた（写真 11(1)、11-(2)）。

（3）エストニアにおける職業・技術教育の歴史について

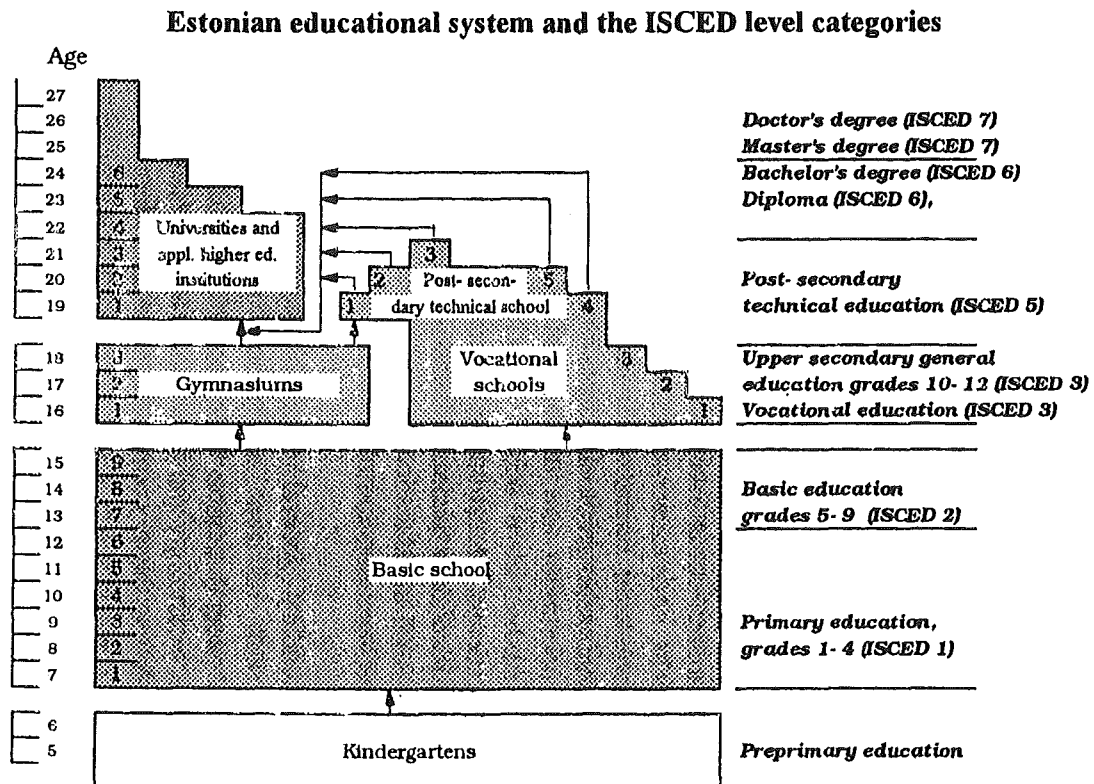
9 月 19 日に訪問したタルトゥ大学教育学研究所のライン・ミクセル（Rain Mikser）氏から 20 世紀前半におけるエストニアの職業・技術教育の展開過程に関する概要を聞くことができた。氏の専門は社会教育学（Social Pedagogy）であり、とりわけその分野におけるドイツ教育学の影響を中心に研究されている（氏が名前をあげた教育学者は、ナトルプ、ノール、クラウス・モランハウエルであり、これらの人物はと職業教育と強いコネクションをもっていると氏は語っていた）。以下に氏からの聞き取りの内容を紹介する。

エストニアでは、19 世紀末から 20 世紀の初めに工業化の波がおしよせてきた。1918 年にエストニアは独立したが、それ以前の、ロシアの時代には高等教育機関はタリンとタルトにあったが、それは上流階級（upper class）の人々のためのものであった。当時の学生たちはほとんどが（民族的には）ドイツ人とロシア人であった。エストニア人は、その多くは農民で、3 年から 6 年間の初等教育だけを受けていた。この時代の初等教育の教育内容は理論的なものだけで、実技的なものは家庭（仕事場）で学習した。多くの人々にとって、手で働くことが必要で、技術的な知識（technological knowledge）は必要ではなかった。この時代には、（教育の世界では）ペスタロッチの考え方が受け入れられていた。1918 年の独立とともに、憲法によってすべての人々は初等教育をうける義務と高等教育をうける権利が保障された（ただし、経済的な条件は困難であったけれども）。それによって、職業教育と普通教育とのバランスが問題となり、ケルシエンシュタンナーの考え方が受け入れられるようになった。この背景には、工業化による教育に対する社会の要求があった。ケルシエンシュタンナーは 14 才から 18 才の教育を問題にしつつ、同時に初等教育の改革をも問題にしていた。とりわけ、セルフ・インデペンデントを重視していた。ケルシエンシュタンナーはだれもがその人自身の必要と社会の必要のあいだのベストなバランスを見いだすことを重視した。この時代は、職業準備はそのままよい行動、社会化の準備にもなった。

1930 年代末になると、ケルシエンシュタンナーにかかわって新しい考え方が入ってきた。この考え方の代表者は、アルフレット・コールト（Alfred Koort）であっ

た。彼によれば、職業教育はもはや社会化、行動の準備を意味しないというものであった。ただし、実際には、1930年代末には中等学校は閉校になっていった。

以上が今回の訪問によって得られた知見である。最後に、ラトビアの教育制度とカリキュラムの基準表とエストニアの教育制度に関する図表を今回の調査で得た資料から紹介しておく⁵。



⁵ラトビアに関する資料は、グローピナ中学校にて得た”Education in Latvia”と Ministry of Education and Science ”Education in Latvia” 1996 から引用した。エストニアに関する資料は、Estonia Ministry of Education ”Education in Estonia present situation and developments July 1996” 1997 より引用した)

Sample curriculum for elementary schools

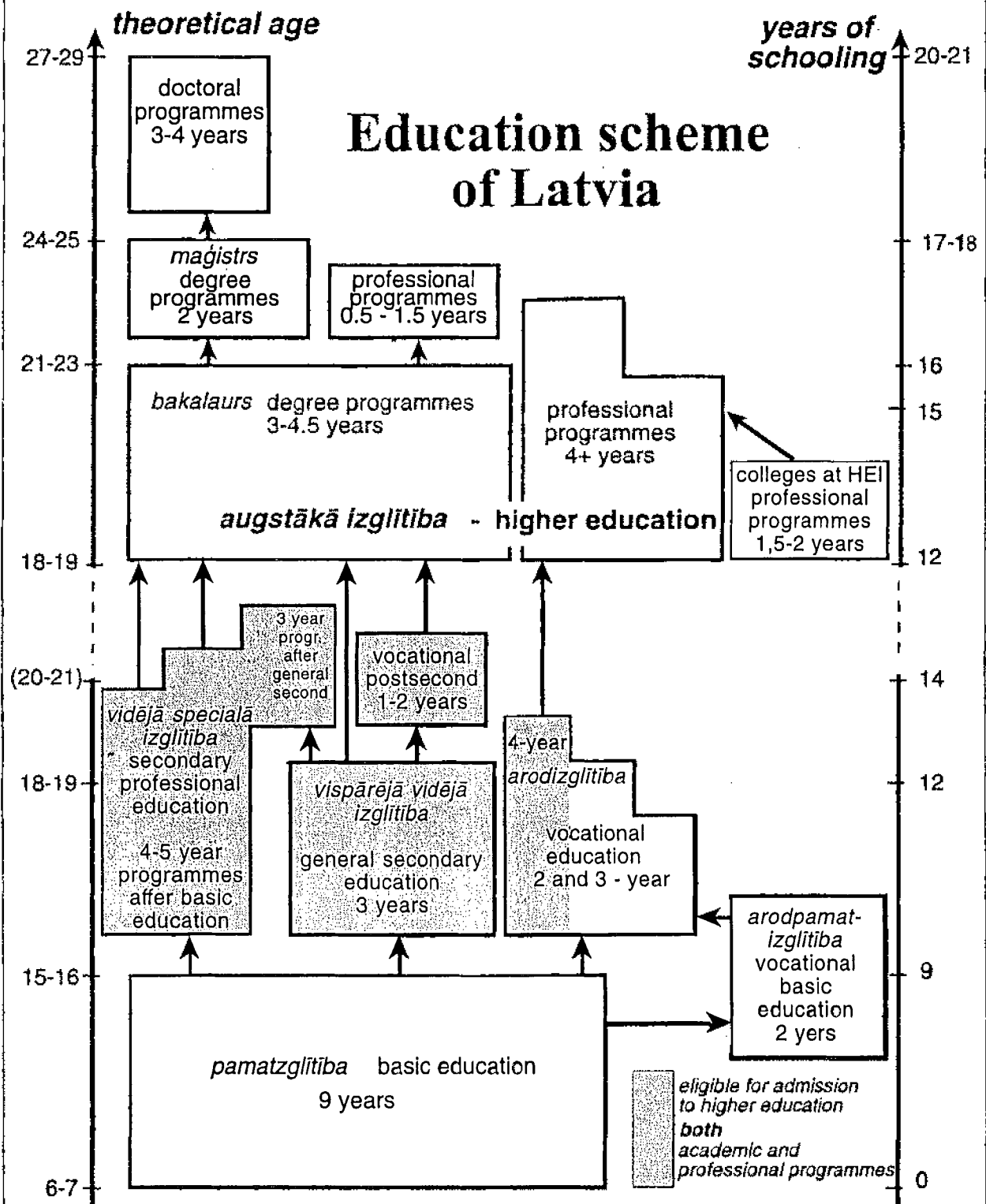
Teaching subject	Lessons per week in each form			
	1	2	3	4
Latvian (mother tongue)	8	8-9	7-8	8-9
First foreign language	-	-	3-5	3-4
Mathematics	4	4-5	4-5	4-5
Environment and nature studies	1	1	1	1
Music	2	2	2	2
Visual art and handicraft	3	3	3	3
Physical education	2	2-3	2-3	2-3
In schools with language of instruction other than Latvian:				
Latvian (second language)	2	3-4	3-4	4
Mother tongue (other than Latvian)	7	7-8	8-9	8-9
Mathematics	4	4-5	4-5	4-5
Environment and nature studies	1	1	1	1
Music	1-2	1-2	1-2	1-2
Visual art and handicraft	2-3	3	3	3
Physical education	2	2-3	2-3	2-3
Pupil's maximum load	20	22	24	24
Optional classes	2	3	3	3

Sample curriculum for basic schools

Teaching subject	Lessons per week in each form				
	5	6	7	8	9
Latvian	3-4	3-4	3-4	3-4	2-3
Literature	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3
First foreign language	4	3	3	2-3	2-3
Second foreign language	-	4-5	3-4	3-4	3-4
History	2	2	2	2	2-3
Civics	-	-	-	-	1-2
Mathematics	5-6	5	6	5-6	5-6
Computer science	-	-	1	-	-
Biology	1	2	2	2	2
Geography	-	2	2	2	2
Physics	-	-	-	2-3	2
Chemistry	-	-	-	2	2
Music	2	1-2	1-2	1-2	1-2
Visual art	2	1-2	1-2	1-2	1
Housekeeping and trade	2	2	2	2	2
Physical education	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3
In schools with language of instruction other than Latvian:					
Latvian	4	4	4	4	4
Mother tongue	3-4	3-4	3-4	2-3	2-3
Literature	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3
Foreign language	4	3-4	3-4	3	3
History	2	2	2	2	2-3
Civics	-	-	-	-	1-2
Mathematics	5-6	5	6	5-6	5-6
Computer science	-	-	1	-	-
Biology	1	2	2	2	2
Geography	-	2	2	2	2
Physics	-	-	-	2-3	2
Chemistry	-	-	-	2	2
Music	2	1-2	1-2	1-2	1-2
Visual art	2	1-2	1-2	1-2	1
Housekeeping and trade	2	2	2	2	2
Physical education	2-3	2-3	2-3	2-3	2-3
Pupil's maximum load	30	32	34	34	34
Optional classes	4	4	4	4	4

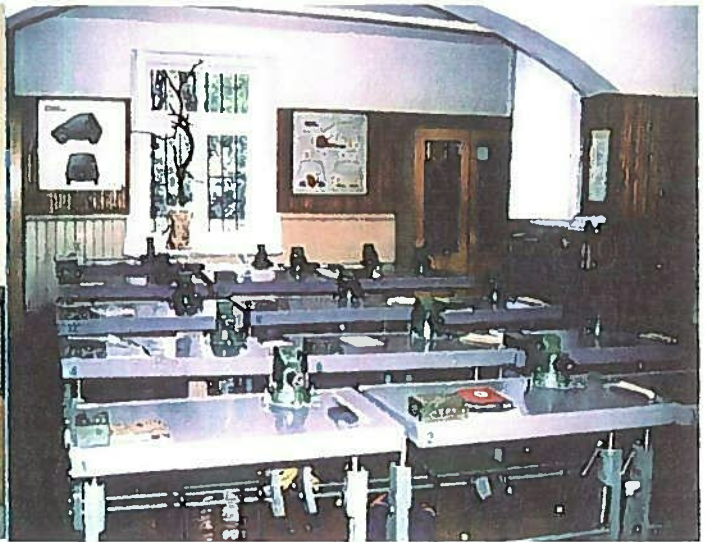
Sample curriculum for secondary schools. Courses and classroom periods.

	Basic course lessons per week within 3 years	Profile course lessons per week within 3 years
Compulsory courses:		
1. Latvian / Mother tongue	15	21
2. Mathematics	11	18
3. History	6	12
4. Foreign language	9	15
5. Physical education	9	-
In schools with language of instruction other than Latvian additionally:		
6. Latvian (second language)	12	18
Optional courses (to be selected):		
<i>Social sciences</i>		
* Philosophy	2	
* Geography	3	6
Business economy basics	3	6
Ethics	2	
Psychology	2	
Logic	2	
Politics and rights	2	
History of religion	2	
Health education	2	
<i>Foreign languages</i>		
* Second foreign language	9	15
* Third foreign language	9	15
<i>Natural sciences</i>		
* Physics	10	17
* Chemistry	7	14
* Biology	6	12
Basic information science or Applied information science	2	6
Information science	2	
Astronomy	2	
Mechanical drawing	2	
<i>Cultural education courses</i>		
* Music	6	15
* History of culture	6	15
* Amateur art	6	15
Housekeeping	6	10
Visual art	6	12
History of art	2	





(1-1)



(2-2)



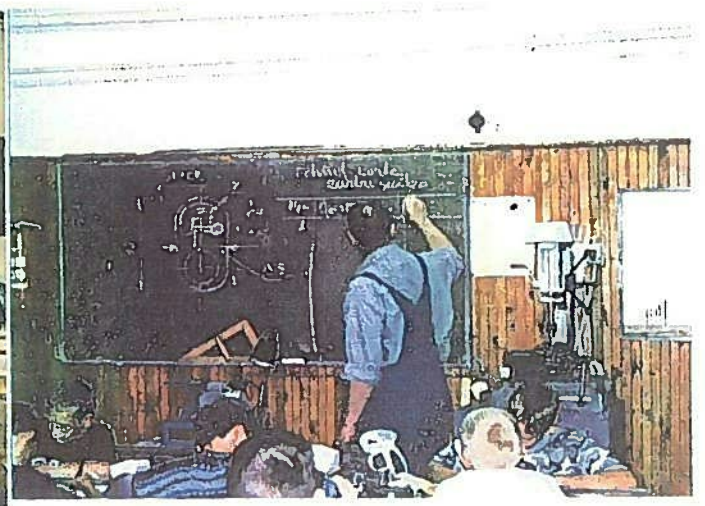
(1-2)



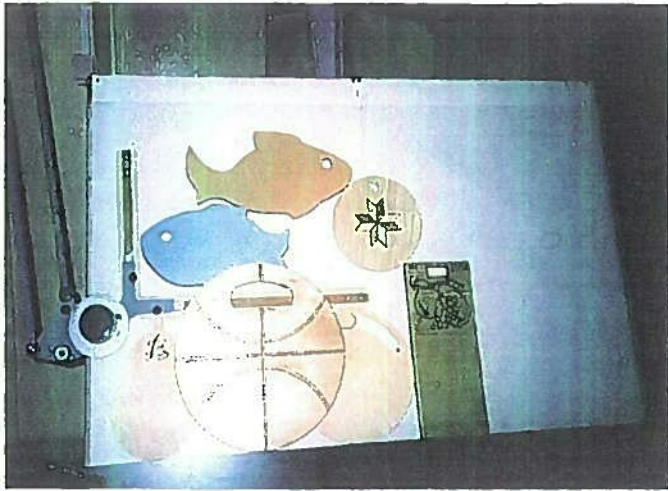
(3-1)



(2-1)



(3-2)



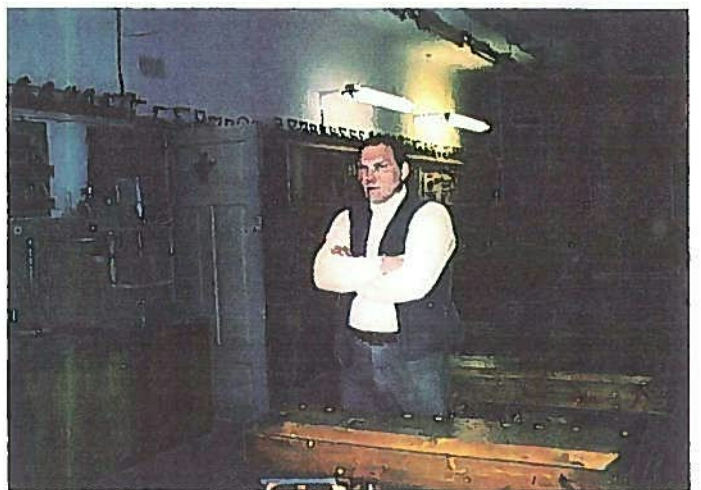
(4-1)



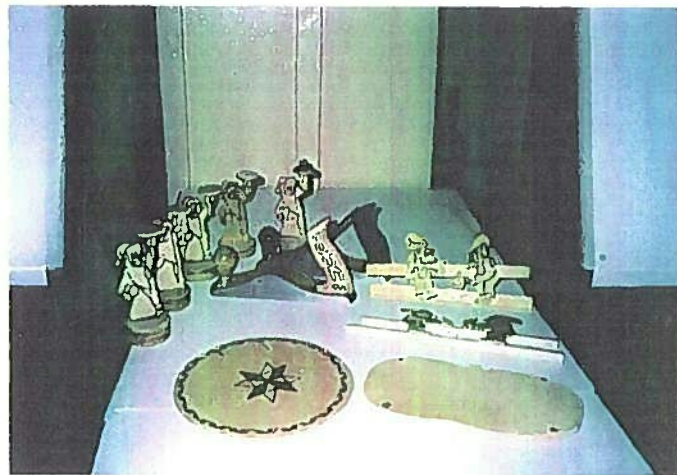
(5)



(4-2)



(6)



(4-3)



(7)